

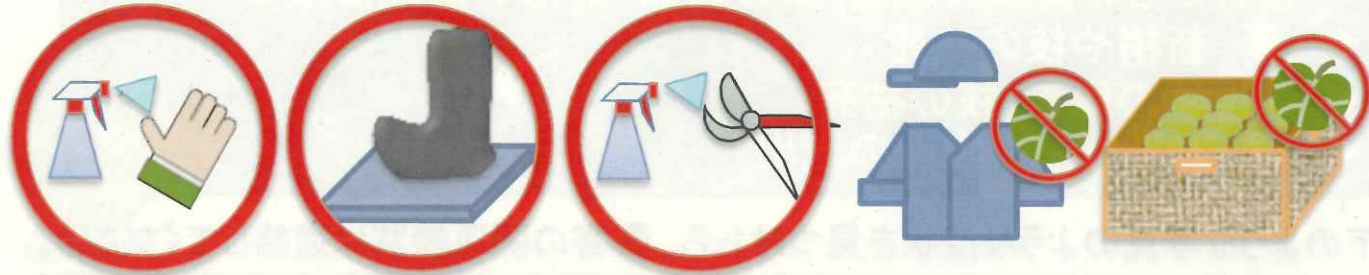
発病前からの予防が重要

Point!



園地の衛生管理

器具や人への病原菌の付着による伝染を防止。



- ◆園地に入りの際は、**手***と**泥を落とした靴底****を消毒。
- ◆**ハサミやのこぎり****は園地ごとに用意し、樹ごとに消毒。
- ◆園地外に出るときには、**体や収穫かご**などに付いた**植物残さ**を除去。
- ◆発生園で作業したときは、そのままの服装で他の園には行かない。
- ◆園地に看板を設置し、関係者以外の立ち入りを禁止。

* 手は70%エタノールで消毒。手袋を使用している場合は、園地ごとに交換。
** 靴底や管理器具は200ppm(有効成分5%で250倍)以上の次亜塩素酸ナトリウムあるいは70%エタノールで消毒。

症状等が無い清浄な苗木・穂木・花粉等の使用

購入先や購入日、量を必ず記帳。

薬剤防除(予防)

低温を好む病原菌のため、秋～春の防除が重要。*

* 詳しくは最寄の指導機関(普及指導センター・JA等)にお尋ねください。

発病等に関する問い合わせは最寄の指導機関に



キウイフルーツ

かいよう病緊急対策

全国の産地で強病原性のかいよう病が発生しています。被害が大きく、広がる速度が速く、防除が難しい病気です。

樹液の流出



新梢の枯死



葉の斑点



枝枯れ



疑わしい症状を見つけたら、連絡を!

かいよう病とは？

- ◆ かいよう病は、樹が枯れることもある非常に被害が大きな病気です。
- ◆ 従来から発生していましたが、近年、海外から侵入してきたと思われる新系統が発生しています。
- ◆ この病気は、人畜等への影響はありません。(果実を食べても問題ありません)

大切なほ場を守るために

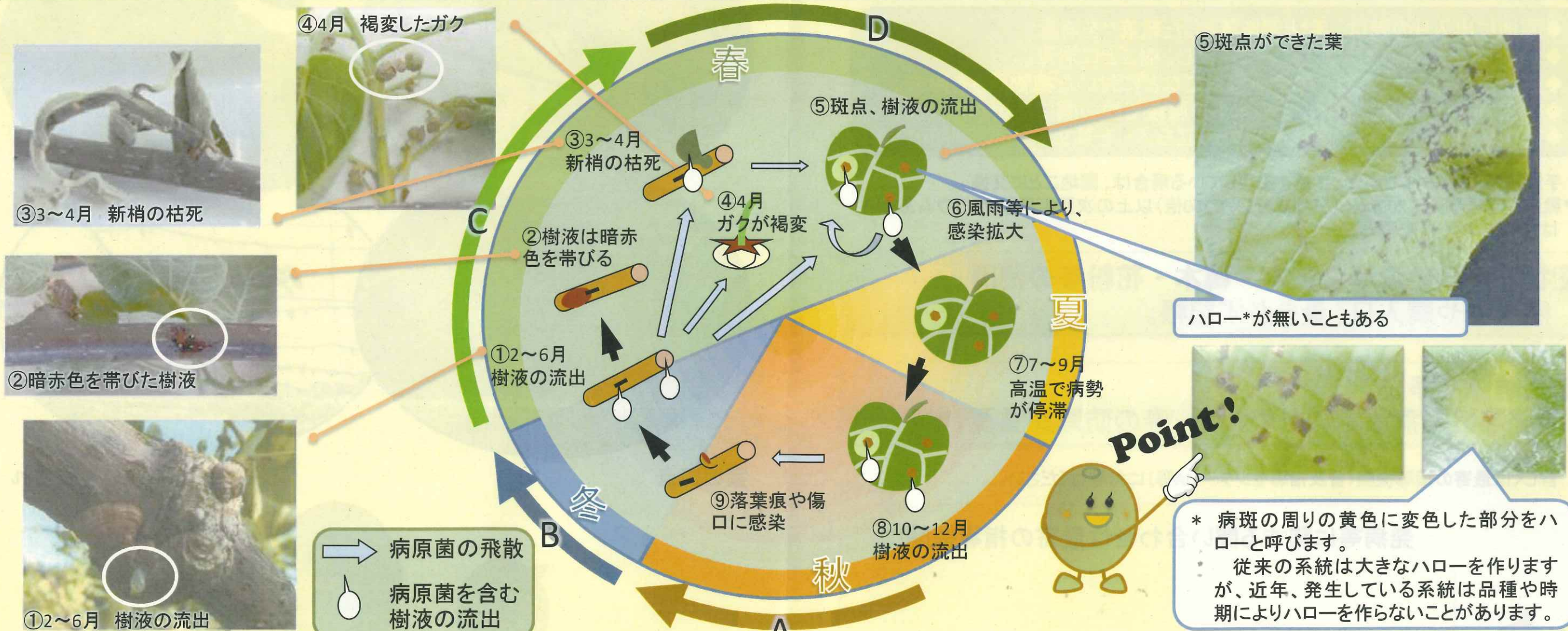
早期発見が重要

- ◆ 春(発芽期～開花後、最も発病が激しい)
枝幹からの樹液の流出・葉の斑点・新梢や枝の枯死等
- ◆ 夏 新梢や枝の枯死
- ◆ 秋 葉の斑点・枝の枯死
- ◆ 冬 枝幹からの樹液の流出



キウイフルーツかいよう病の発生生態と病徴

下のような写真のような症状を見つけたら、最寄の関係機関に連絡してください。



③3～4月 新梢の枯死

④4月 褐変したガク

②暗赤色を帯びた樹液

①2～6月 樹液の流出

ハロー*が無いこともある

- ① 樹液流動が始まる2月頃から、皮目や剪定痕などの傷から病原菌を含む樹液が流出し、気温が上がる6月ごろまで続きます。
- ② 皮層部が壊死すると樹液は暗赤色を帯びます。
- ③ 発芽間もない新梢を枯死させます。
- ④ ガクや花弁を褐変させます。

- ⑤ 4月頃から、葉に感染し、発病します。
- ⑥ 病斑から病原菌が流出し、感染が拡大します。
- ⑦ 平均気温が25℃を超える7月～9月は、病勢は停滞します。
- ⑧ 10月頃から、菌の増殖が活発化し、菌の流出は落葉期まで続きます。
- ⑨ 流出した菌は落葉痕や傷口から樹体内に感染します。

* 病斑の周りの黄色に変色した部分をハローと呼びます。
従来の系統は大きなハローを作りますが、近年、発生している系統は品種や時期によりハローを作らないことがあります。

← 防除時期 (A～D)
病原菌は、春(C～D)に活発に活動し、夏は一旦停滞しますが、秋(A)～冬(B)に再び活動します。このため、秋～春にかけて(A～D)が薬剤防除の時期になります。
A 落葉期 B 剪定後 C 発芽期～出蕾前 D 出蕾後